

モダナイズすれば 旧車はもっと楽しい

SKYLINE HT2000GT RB25MODIFIED

エンジンを換えることで得られる
快適性や日常性は旧車の世界を一変させる



ベースはGTだがオーバーフェンダー、
グリル、リヤパネルが変更されGT-Rにしか見えないレックスを得ている。



インテリアはシルバーのパネルに
変えられGT-Rのイメージを
再現している。油圧パワステ
のため小径ステアリングが苦
にならない。



センターコンソールには備え付け
のようにカーナビを装備。その上には新世代スカイラインから移植されたオートエアコンを配置している。



前後のシートは
ケンメリ用のままで
されているので
雰囲気を壊すよ
うなことはしてい
ない。必要であ
ればバケットシートの用意もある。

何の違和感もなくRBエンジンが収まる。エンジンやタービンはノーマルだがケンメリに対しては十分すぎるほどのパフォーマンス。足回りにはオリジナル車高調が入っている。



熱量の多いターボエンジンだからラジエターやインタークーラーはRB専用のものを装着することが求められる。無理ない取り回しだ。

Way Of The Vintage Style
モダナイズ旧車で走り出せ!

RBエンジン搭載でケンメリは生まれ変わる

SKYLINE HT2000GT RB25MODIFIED

旧車の魅力の一つがエンジンだが、同時に故障やトラブルの原因でもある。
それならエンジンを載せ替えて不安を払拭すればいい。重くて走らないイメージのケンメリが豹変する。



写真・内藤敬仁 文・増田満
Photos by Takahito Naito Text by Mitsuru Masuda



圧倒的なエンジン性能を手に入れたためフロントブレーキにはロッキーオートオリジナルの4ポットキャリパーを装備した。



アルミホイールは最新テクノロジーで生
まれたTE37Vをチョイス。サイズはフロン
ト205/50R16、リヤ245/45R16だ。

ケンメリはスタイルこそ洗練されたものの、ハコスカより大きくなつたことで重量が増えた。両車とも同じエンジンだから、当然ハコスカはケンメリより速い。けれどスタイルはケンメリがいい、なんてジレンマをお持ちではないだろうか？

だったら違うエンジンに載せ替えてケンメリの世界を変えればいい。そんな回答を用意してくれたのがロッキーオート。すっかりRBエンジンをスワップするショップとして有名だが、そのクルマに接するたびに新鮮な驚きと乗りやすく速い仕上がり具合には圧倒されてしまう。

まずはケンメリにRB25ターボを搭載したクルマから紹介しよう。このクルマの魅力は圧倒的に速いエンジンがまず挙げられる。R33用でも245ps、R34用なら280psもあるのだから、そのまで十分以上に速い。そして快適性。エアコンが使えるのはもちろん、油圧パワステもエンジンごと移植できる。

心配なのがトラブルだが、エンジン本体に不安はない上、ハーネスを引き直されているのでつまらないショートや断線も無縁。ともあれ、一度乗れば、その魅力は誰にでもわかる。ヒールの女性でも運転できるほどイメージドライブで、旧車のような排気音で走行できるのだから。

RBだからできる
快適性と高性能

ケンメリはスタイルこそ洗練され

たものの、ハコスカより大きくなつた

ことで重量が増えた。両車とも同じ

エンジンだから、当然ハコスカはケンメ

リより速い。けれどスタイルはケンメ

リがいい、なんてジレンマをお持ちで

はないだろうか？

だったら違うエンジンに載せ替えて

ケンメリの世界を変えればいい。そん

な回答を用意してくれたのがロッ

キーオート。すっかりRBエンジンを

スワップするショップとして有名だ

が、そのクルマに接するたびに新鮮な

驚きと乗りやすく速い仕上がり

具合には圧倒されてしまう。

まずはケンメリにRB25ターボを

搭載したクルマから紹介しよう。こ

のクルマの魅力は圧倒的に速いエンジ

ンがまず挙げられる。R33用でも2

45ps、R34用なら280psもある

のだから、そのまで十分以上に速

い。そして快適性。エアコンが使える

のはもちろん、油圧パワステもエンジ

ンごと移植できる。

心配なのがトラブルだが、エンジン

本体に不安はない上、ハーネスを引

き直されているのでつまらないショ

ートや断線も無縁。ともあれ、一度乗

れば、その魅力は誰にでもわかる。

ヒールの女性でも運転できるほど

イメージドライブで、旧車のような

排気音で走行できるのだから。

モダナイズすれば 旧車はもっと楽しい

R32 SKYLINE2DOOR SPORTS COUPE GTS MODIFIED KEN&MARRY

想像だけなら誰でもするだろう
究極のスワップがボディの変更だ



前のページとよく見比べてほしいが、こちらも見た目にはケンメリGT-Rでしかない。わずかにフロントウインドーの傾斜角が強いことが相違点だ。

完全にケンメリを再現したボディとは裏腹にインテリアはR32のままとなっている。運転している間は旧車であることを忘れさせてくれる。

シートは厚み、ホールド性ともに優れるR32純正。これなら長距離ドライブでも疲れ知らずで過ごせること間違いなし。



嬉しいことにRBエンジンにはファンネル仕様のスポーツインジェクションを装備。レスポンスは純正の比ではなく、旧車のような吸気音も楽しめる。



撮影協力 ロッキーオート

愛知県岡崎市小美町字殿街道153 TEL0564-66-5488
<http://www.rockyauto.co.jp>



Way Of The Vintage Style
モダナイズ旧車で走り出せ!

見た目はケンメリなのに中身は?

R32 SKYLINE2DOOR SPORTS COUPE GTS MODIFIED KEN&MARRY

エンジンを載せ替え豹変するケンメリだが、操縦性の特性までは変えられない。
それならシャーシごと変更してしまったどうだろう? それはロッキーオートでしかなしえない大仕事だ。



写真●内藤敬仁 文●増田満
Photos by Takahito Naito, Text by Mitsuru Masuda

純正同様に12色のラメ塗装が施されたオーバーフェンダー内に収まるのはRSワタナベ製8スポークホイール。古典的だが安心感もある。



Aピラーを見れば苦労が垣間見える。ボディ剛性を司る部分であるのでR32のものを使うが、細く見せるためモールを黒く塗装している。



フロントグリルはGT-R用が装着され、まさに完璧なイメージ。ヘッドライトはIPF製のハロゲンを装着しており旧車のように暗くはない。

長年RBエンジンの載せ替えを行ってきたロッキーオートだからこそ思いついたのだろう。旧車にRBエンジンを載せるのではなく、R32や33にケンメリのボディを被せて仕舞えばいいのではないか、と。

ルックスは旧車ながら、エンジンや装備だけではなく足回りを含めてシャーシを刷新すれば、格段に現代的な乗り心地と操縦性が得られる。確かにこれは究極のレプリカと言えるだろう。だが、果たしてそんなことが可能なのか。それを現実のものしてくれるのがロッキーオートの技術力と開発能力なのだ。

ここで紹介するのはR32スカイラインにケンメリのボディを与えたクルマだ。そう言わなければ、誰もそんなことは想像もできないほどの仕上がり具合。ボディパネルはケンメリから型取りされているため、ほぼそのまま。実際にはフロントウインドーの傾斜角など微妙に違うはずなのだが、全体として見た印象はケンメリそのものだ。

エンジンをスタートさせて走り出せば、見た目の印象を良い意味で裏切ってくれる。全くケンメリではないのだ。馴染み深いR32の素直でコントローラブルな操縦性がそこには待っている。これなら遠慮なくアクセルを全開にできるというものだ。

発想を逆転すれば
旧車に不可能はない

大好評

Dai チューナー Daiの交遊録

PRIDE OF TUNING With OPTION

現在からさかのほること約35年前、OPTを創刊しオートサロンを産み出したのがDai。その後OPTの総帥として、チューニング業界の一躍を担い続けてきた。そんなDaiと歩み続けてきたチューナーたちへの思いや、エピソードをコラム形式で綴っていく。



今年の東京オートサロンで、コンセプトカー部門優秀賞に輝いたR 3000GTボンドカー。往年の名車ナンバー1として知られるトヨタ2000GTのカスタムレプリカのオープニングショーカーだ。

この車両の製作者がロッキーオートのナベちゃん、渡辺喜也といふ有名な旧車界のカリスマであり、スキンヘッドに黒ハット、黒スリーツなど特異なコワモテスタイルでお馴染みだ。

聞いたところによると、もともとはトヨタ系のメーカーで新車の設計に携わっていたとのことで、デザインや製作に関しても造詣が

「朝イチじやキャブがぐずついたりするし、ハンドルが重いとか、クーラーもないんなんてのじや、せつかくの好きなクルマなのに乗るのが嫌になることがあるじゃないですか?」という。まったく同感である。

そんな思いで旧車に現代のパワートレーンや足回り、パワステ、エアコンを巧みに移植するという革命的なシステムを作り上げることになる。これがロッキーオート流旧車カスタマイズであつた。

オレがたびたび会うようになつたのも、この画期的なクルマの試乗からだつた。セルシオV8搭載S 30Z、日産V6搭載S 30Z、R 32スカイラインGTRそつくり移植のハコスカ・そして、最高傑作ともいえるのがトヨタ2000GTの復活であつた。

1967年当時230万円といふ超高価な車両(たぶん70年ごろのオレの給料5万円くらいだったんじゃないかなあ?)。多くの記録も生み出したし、世界に誇れる、実際に知名度抜群のスポーツカーだ。

この希少な名車を蘇らせるべく、ナベちゃんの作戦はトヨタ本丸を崩した。なんせ、開発責任者だった往年のワークスドライバー

ロッキーオート
渡辺喜也
の巻

深いのだ。そして30年ほど前、ハイソカーや大好きな旧車、そして街道レーサー仕様なんかの販売店として独立しているのだという。その後、歳を重ねるとともに、独自のノウハウを盛り込んだレストアで名を馳せていく。人気のハコスカやS 30フェアレディZなど50年以上前のメカニズムを廃し、新たな世代のメカニズムを盛り込むというのだ。

コスカやS 30フェアレディZなど50年以上前のメカニズムを廃し、新たな世代のメカニズムを盛り込むコスカやS 30フェアレディZなど50年以上前のメカニズムを廃し、新た

細谷さんを口説き落とすことから始めているのだから恐れ入る。

また、開発の1号車を環境時代の現代に適合したハイブリッド仕様で製作したことなどナベちゃんのビジネス感覚は素晴らしい。

こうしたルートを踏みながら最終的にパワフルな2JZエンジン搭載の3000GTへと昇華させたのだ。そして、今では「東京までなんども往復しましたが、ボ

ディ剛性が高く、パワーがあつて、気持ち良くて速いですよ!」と得意げに語る。そのお値段はうん千万円と破格だが、この開発にはものすごい投資をしているので致し方がないことだ

ろう。

ナベちゃんの一連のビジネスが旧車価格を異常高騰させたところもあるし、彼もそれを知っている。それで

も「正しい相場が形成されることで、しっかりととしたレストアを施せる土壤が整つ

た」と支持する人もいる。

今の旧車は庶民には買いくらいほどの価格で取引されているのも確かだ。でも、ナベちゃんは、「数少ない旧車を程度よく保ち、存続させる道だと信じている」という。

ところで実は、オレはハイブリッド仕様の車両には乗らせてもらつたが、まだ3000GTに乗つてない。

春になつたら訪問して乗らせてもらいたいし、ついでに例の美味しこい和食割烹へ行きたいナーなんて思つてゐる。ネツ!! ナベちゃん

(笑)



渡辺さんからのひとこと

元々チューニング業界のトップスターと思って見ていたんだけど、知りあってからは毎年オートサロンで最初にあうから、ボクにとって1年の始まりを意識させてくれる人ってイメージがあるよね。そして、知りあわなくちゃ気付かないのがDaiちゃんの優しさ。特に愛犬には優しいみたいだけど、動物を愛せる人は人にも優しくできるからね。でも、昔に比べてちょっとおとなしくなってるんじゃないかなって気もするね。確かに、年齢のこともあるだろうけど体をいたわりながらムチャしていってもらいたいね。世界のイナダダイジロウさまなんだから!!